

豊岡市記者配布資料

年月日	部課名	電話	責任者 (役職名)
2023年 9月20日(水)	城崎振興局 地域振興課	0796-21-9065 (内線5010)	藤原孝行 (課長)

(件名)

令和5年度過疎地域持続的発展優良事例表彰で 「NPO法人本と温泉」が全国過疎地域連盟会長賞を受賞

(内容)

総務省および一般社団法人全国過疎地域連盟主催の令和5年度過疎地域持続的発展優良事例表彰で、本年活動10周年を迎えたNPO法人本と温泉の活動が、全国過疎地域連盟会長賞を受賞しました。

1 過疎地域持続的発展優良事例表彰

本表彰は、地域の持続的発展と風格の醸成を目指し、過疎地域において様々な課題に取り組み、創意工夫により活性化が図られている優良事例について表彰を行い、過疎地域の持続的発展を図るもので、今回で34回目の表彰となります。

本年度は全国で総務大臣賞3事例、全国過疎地域連盟会長賞5事例が受賞しています。本市では、平成3年度に但東町「都市と農村と人・物・文化の交流を目指した町づくり」が受賞して以来、合併後は初めての受賞です。

2 表彰式

- (1) 日時 10月26日(木) 午後1時20分～
- (2) 場所 富山県民会館(富山県富山市)
- (3) 出席予定者 NPO法人本と温泉メンバー

3 NPO法人本と温泉の今後の取組み

- (1) 設立10周年記念企画「第5弾」出版
作家 いしいしんじさんを迎え、第5弾の制作開始
※詳細は別紙2(本と温泉2023年6月15日プレス発表資料一部)
- (2) 設立10周年記念企画「新訳・城の崎にて(英訳版)※仮称」出版
写真家 川内倫子さん、翻訳 テッド・グーセンさんによる、世界へむけた「城の崎にて」の魅力が伝わるフォトアートブックの制作開始
※詳細は別紙3(本と温泉2023年6月15日プレス発表資料一部)

4 NPO法人本と温泉 問い合わせ窓口

連絡先 Tel 32-4141(城崎温泉旅館組合内)
Mail booksonsen@gmail.com

※本と温泉の活動や出版物に関することは、こちらの窓口へ連絡してください。

《問合せ》城崎振興局地域振興課地域振興係(担当水谷)
Tel 21-9065(内線5010)



第 1 弾

志賀直哉

『城の崎にて』

『注釈・城の崎にて』

『城の崎にて』が、詳細な注釈付きで二冊組みでよみがえりました。2013年の発売より、版を重ねて好評販売中。増刷ごとに変わる箱の色はお楽しみ。

“小説の神様”と呼ばれる作家志賀直哉が、1907年、城崎逗留の記憶を記した短編「城の崎にて」。1903年、東京で山手線にはねられ怪我をした志賀直哉が、治療のため訪れた城崎で小さな生きものの命に見た自然感を記した物語です。

文庫にしてわずか十数ページの小説に、網羅的な解説を試みた超“解説編”を合わせた二冊組。直接体験してもまだ知らない城崎が、この本にあるかもしれません。

著者：志賀直哉
 解説版：江口宏志
 装丁：尾原史和
 発売日：2013年9月1日
 価格：1,200円（税込）

第 2 弾



『城崎裁判』
書き下ろし小説
万城目学

小説家万城目学が城崎に滞在し、志賀直哉の足跡を追体験して書かれた書き下ろし新作。志賀直哉が、「城の崎にて」の中で投石によって死なせてしまったイモリへの“殺しの罪”と、小説家の創作の源泉を探る温泉奇譚。

本と温泉レーベル第二弾となる本作は、『プリンセス・トヨトミ』などを知られる小説家、万城目学による完全書き下ろしの小説『城崎裁判』。志賀直哉は「城の崎にて」で、小さな生き物たちの儂い命と自分という人間の死生観を描きましたが、万城目は、志賀が「城の崎にて」の中で犯した“殺しの罪”の責任の所在と、小説家の創造の源泉を巡る、不可思議な世界を作り出しました。文豪たちはなぜ温泉地で物語を書いてきたのか、名作「城の崎にて」はなぜ城崎温泉を経て書かれたのか。それがわかるかもしれません。

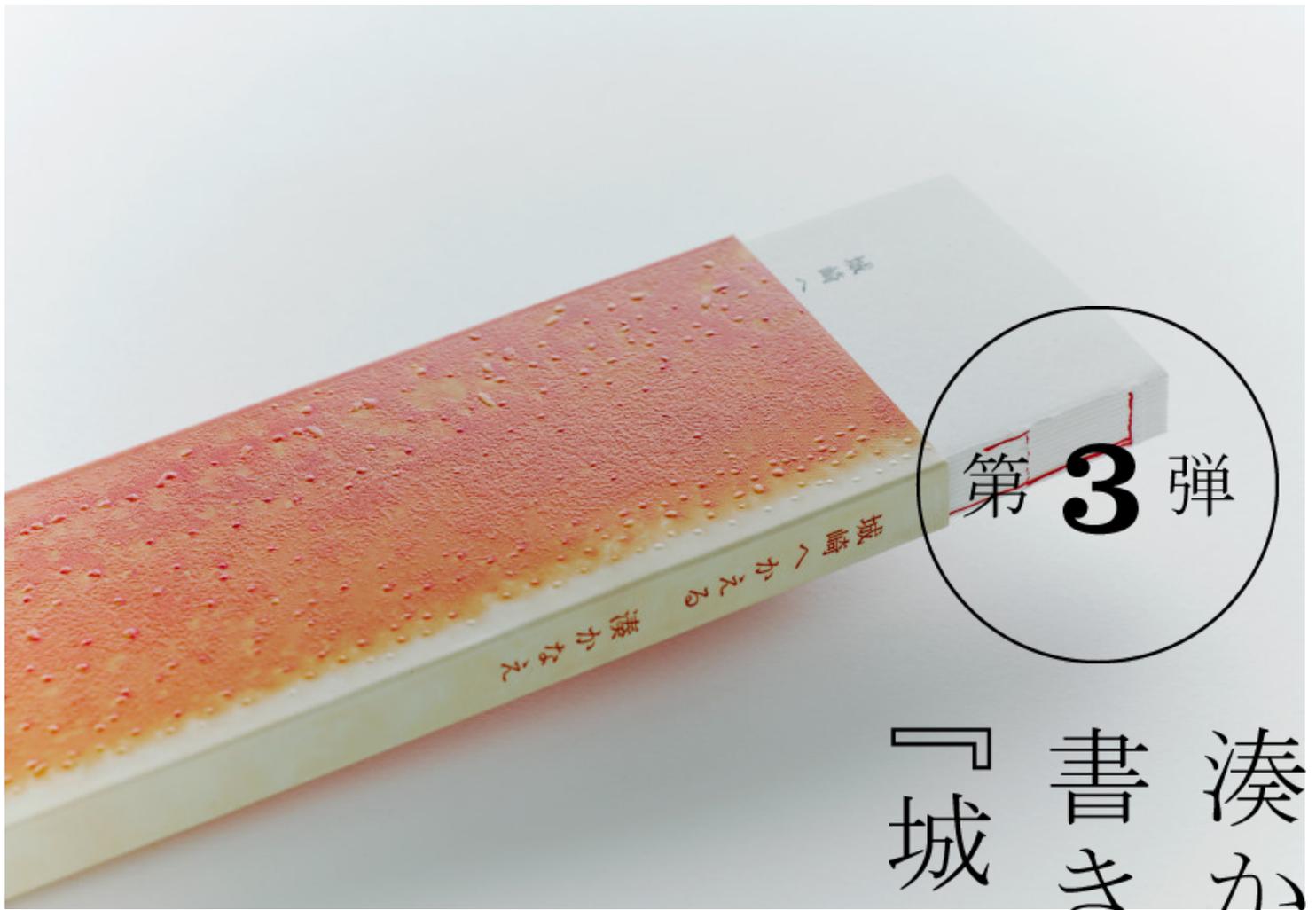
著者：万城目学

編集：BACH

装丁：長嶋りかこ

発売日：2014年9月18日

価格：1,900円（税込）



第3弾

湊かなえ
書き下ろし小説
『城崎へかえる』

2016年山本周五郎賞受賞の作家、湊かなえの書きおろし。城崎へ行くのではなく、城崎へ“帰る”という女性が、ひとり喪失感を抱えて城崎を訪れる。その喪失感を埋めてくれたのは、かつて城崎を訪れた母との思い出と温泉、そして蟹でした。

主人公は、10年ぶりに城崎温泉を訪れた。ここにポツカリと空いた「何か」を埋めるために。思い出の地で彼女は何を見つめ、何に気づいたのか。温泉と蟹が記憶のトリガーとなり、喪失したところをやすらげる、あたたかな短編です。

本物の蟹の殻を思わせる特殊テクスチャー印刷。殻から身を抜くように箱から取り出し、じっくり味わってみてください。

著者：湊かなえ

編集：BACH

装丁：本庄浩剛

発売日：2016年7月1日

価格：1,400円（税込）



第4弾

『城崎ユノマトへ。』
描き下ろし絵本
tupera tupera

子育て世代の多い若旦那衆の興味は、いよいよ絵本づくりにまで及びました。

読者をあっといわせる物語の構成と斬新な造本で知られるtupera tupera。カランコロンと下駄を鳴らすそぞろ歩きの音を始め、この温泉まちから聞こえてくる色んなオノマトペが長ーい1冊のジャバラ絵本に。

下駄型のユニークな表紙をひらいていくと鮮やかな切り絵作品が現れ、その一大絵巻の中には町の来歴を表す多くの人や場所が隠れています。

繊細な切り絵を眺めるのもよし、ゆかりの人物を探して遊ぶのもよし、飾っておいてもよし

tupera tuperaを何度か城崎温泉にお招きし、そこを歩き、味わい、温泉に浸かっていたいた末に生まれた絵本

著者：tupera tupera

編集：BACH

装丁：渡辺和音

発売日：2020年2月8日

価格：2,200円（税込）

設立10周年記念企画

本と温泉『第5弾』出版について

プレス発表 2023年6月15日(木) 14時 城崎文芸館にて

2013年の設立以降「本と温泉」の第1弾～4弾までの作品は、城崎温泉に来られた観光客の皆様のご好評を受け、累計発行部数6万部を突破いたしました事をご報告させていただき、感謝と御礼を申し上げます。この度、設立10周年を記念して、第5弾の作家を発表したいと思います。

第5弾の作品の作家さんは、いしいしんじさんとなります。第4弾の城崎ユノマトペのtupera tupera さんとの作品、『まあたらしい1日』を拝読し、その優しさを感じる文章を読ませていただき、今回、ご依頼をさせていただきました。ご自身も城崎には何度かお越しをいただいております、城崎ならではの物語を書き綴っていただければと考えております。

作家 いしいしんじ

1966（昭和41）年大阪生れ。京都大学文学部仏文学科卒。1996（平成8）年、短篇集『とーきょーいしいあるき』刊行（のち『東京夜話』に改題して文庫化）。2000年、初の長篇『ぶらんこ乗り』の刊行をし、2003年『麦ふみクーツェ』で坪田譲治文学賞、2012年『ある一日』で織田作之助賞、2016年『悪声』で河合隼雄物語賞を受賞しました。その他の小説に『トリツカレ男』『プラネタリウムのふたご』『ポーの話』『みずうみ』『四とそれ以上の国』『よはひ』『海と山のピアノ』、エッセイに『京都ごはん日記』『且坐喫茶』『毎日が一日だ』など。2018年12月現在、京都在住。妻の園子さん、息子のひとひくんと暮らしています。



「本と温泉」と城崎温泉について

「本と温泉」は、2013年の志賀直哉来湯100年を機に、次なる100年の温泉地文学を送り出すべく、城崎温泉旅館経営研究会が立ち上げた出版レーベルです。

城崎温泉は、外湯めぐりとあたたかなもてなし、そして松葉蟹や但馬牛などの食文化で多くの文人たちに安らぎと刺激を与えてきました。志賀直哉を始め、さまざまな小説家や詩人、歌人、芸術家が訪れた文芸の温泉地として、これからの100年読まれ続ける新しい本づくりをしていきます。小説に限らず、詩やエッセイ、紀行、写真集、アートブックなど、さまざまな表現による、愉快で驚きに溢れた本をお楽しみください。



NPO法人本と温泉

兵庫県豊岡市城崎町湯島78

城崎温泉旅館組合内

TEL：0796-32-4141

<https://books-onsen.com>

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

NPO法人本と温泉 広報 松原香苗 booksonsen@gmail.com

設立10周年記念企画

『新訳・城の崎にて（英訳版）※仮称』出版について

写真 川内倫子 翻訳 テッド・グーセン

プレス発表 2023年6月15日(木) 14時 城崎文芸館にて

最初の作品として『注釈・城の崎にて』を発行した「本と温泉」が設立10周年を迎えて、世界へ城崎温泉の魅力を伝えるコンテンツとして、『新訳・城の崎にて（英語版）※仮称』を出版致します。単に英訳をするだけではなく、城の崎にての世界観をより感じていただくためにフォトアートブックの要素も含めたコンテンツに仕上げていきます。

写真家には世界的にも評価が高い「川内倫子」、翻訳は多くの日本文学の作品を英語圏に紹介する翻訳家の「テッド・グーセン」にそれぞれお願いしております。設立10周年を迎え、次代に向けては、世界にこの城崎の魅力が伝わるフォトアートブックに仕上げていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

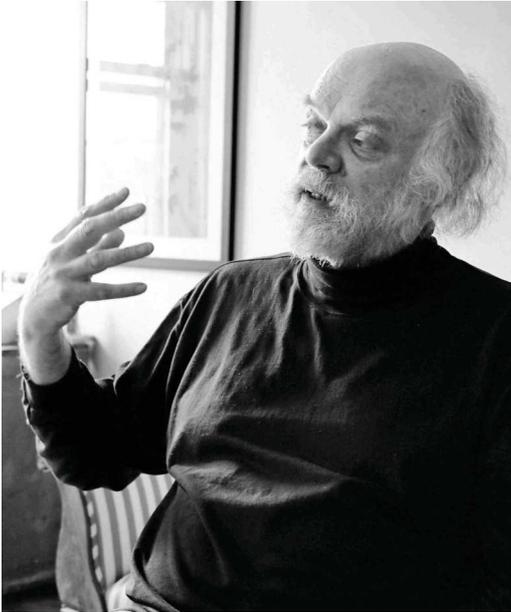
写真家【川内倫子（かわうちりんこ）】

1972年4月6日生まれの子の日本の写真家。日常生活を切り取りつつ、その中にある生と死のもろさを表現する写真を撮り続けています。柔らかい光をはらんだ淡い色調を特徴とし、初期から一貫して人間や動物、あらゆる生命がもつ神秘や輝き、儚さ、力強さを表現。身の回りの家族や植物、動物などの儚くささやかな存在から、長い時を経て形成される火山や氷河などの大地の営みまで等しく注がれる川内のまなざしは、それらが独自の感覚でつながり、同じ生命の輝きを放つ様子を写しとっており、国内はもとより海外で高く評価されています。<http://rinkokawauchi.com/>



翻訳家【テッド・グーセン】

ヨーク大学教授。志賀直哉、村上春樹、川上弘美、小川洋子、岸本佐知子などの作品を翻訳しています。編著にオックスフォード日本短編集。文芸誌『MONKEY』英語版共同責任者。カナダの大学で日本文学を教えながら、村上春樹さんの小説や自分で選んだ日本の短編小説集を英訳して出版、多くの日本の文学作品を英語圏に紹介しています。1968年に初めて日本へ行き、日本との関わりが始まりました。日本語で日本の文学作品を読むのが大好きになり、博士論文では志賀直哉を取り上げました。



仕様・完成イメージ

英語版 城の崎にて（仮称）完成イメージ 写真 川内倫子/訳テッドグーセン

sample:TOKYO PARROTS Yoshinori Mizutani より



手触りの良いデザイン性の高いアートブック。表紙を布張りにしたり、中身の紙は写真が最も美しくなるような上質紙を使用した上製本。
A5サイズ・64頁・4000円税込くらいを想定します。仕様は変更可能性あり。
その他のアートブック参考例は[こちら](#)をご覧ください。



日常生活を切り取りつつ、その中にある生と死のもろさを表現する写真を撮る。柔らかい光をはらんだ淡い色調を特徴とし、初期から一貫して人間や動物、あらゆる生命がもつ神秘や輝き、儚さ、力強さを撮り続けている写真家川内倫子による城崎温泉現地での撮りおろし作品となる為、海外からも非常に着目を集める可能性がある

「本と温泉」と城崎温泉について

「本と温泉」は、2013年の志賀直哉来湯100年を機に、次なる100年の温泉地文学を送り出すべく、城崎温泉旅館経営研究会が立ち上げた出版レーベルです。

城崎温泉は、外湯めぐりとあたたかなもてなし、そして松葉蟹や但馬牛などの食文化で多くの文人たちに安らぎと刺激を与えてきました。志賀直哉を始め、さまざまな小説家や詩人、歌人、芸術家が訪れた文芸の温泉地として、これからの100年読まれ続ける新しい本づくりをしていきます。小説に限らず、詩やエッセイ、紀行、写真集、アートブックなど、さまざまな表現による、愉快で驚きに溢れた本をお楽しみください。



NPO法人本と温泉

兵庫県豊岡市城崎町湯島78

城崎温泉旅館組合内

TEL：0796-32-4141

<https://books-onsen.com>

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

NPO法人本と温泉 広報 松原香苗 bookonsen@gmail.com

令和5年9月19日
総務省
一般社団法人全国過疎地域連盟令和5年度過疎地域持続的発展優良事列表彰における
総務大臣賞及び全国過疎地域連盟会長賞の決定

総務省及び全国過疎地域連盟は、令和5年度の過疎地域持続的発展優良事列表彰における総務大臣賞及び全国過疎地域連盟会長賞を以下のとおり決定しました。

表彰式については、10月26日（木）富山県にて開催予定の「全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま」において執り行う予定です。

1 過疎地域持続的発展優良事列表彰について

本表彰は、過疎地域の持続的発展と風格の醸成を目指した過疎地域の取組を奨励するものです。過疎地域持続的発展優良事列表彰委員会（委員長 宮口侗廸早稲田大学名誉教授）において、優れた成果を上げた過疎対策の先進的・モデル的事例としてふさわしい、地域の特性を活かした創意工夫ある優良事例を選定しました。

2 受賞事例

◎総務大臣賞（3事例）

団体名	キャッチフレーズ	概要
一般社団法人 <small>ひっぽ</small> 筆甫 地区振興連絡協議会 (<small>まるもりちょう</small> 宮城県 丸森町)	地域の課題・難題にな んでも挑戦！ 協働の地域づくり	平成22年度に丸森町から筆甫まちづくりセンターの指定管理を受けたことを契機に、地区住民自らが住み慣れた地域で安全・安心に自分らしく暮らすことができる地域社会の構築を目指し事業を開始。 地域の重要課題であった獣害対策としてイノシシ対策、高齢者の困りごとを解決する「お助け隊」、特産品である「へそ大根」のブランド化、買い物弱者対策として店舗の開設、ガソリンスタンドの事業承継など、暮らしやすい地域を地区自らがつくり続け、「地域の自立」や「持続可能な社会の形成」を具現化している。

<p>やまこし 山古志 住民会議/ネ オ山古志村（山古志 DAO） （新潟県 <small>ながおかし</small> 長岡市）</p>	<p>NFT×限界集落 ～デジタル村民と挑 戦する新たな村づく り～</p>	<p>中越地震による被災、平成の大合併による市町村合併を契機に住民主体の地域づくりの機運は高まる一方で、少子高齢化をくいとめることが出来なかったが、物理的制約を解放するデジタル技術に可能性を見出し、取組を開始。</p> <p>ローカルの価値を最大限に広げるのがデジタルであると考え、NFTを「デジタルアート×電子住民票」として活用し、NFTを接点とした共同体を形成し世界中から知恵や資源、独自資金を集め、地域を存続させる挑戦をしている。</p>
<p>あさひまち <small>じっしょう</small> 朝日町 MaaS実証 <small>じっけんすいしん</small> 実験 推進 協議会 （富山県 <small>あさひまち</small> 朝日町）</p>	<p>手軽、気軽、みんな 助かる！ノックル！</p>	<p>持続可能な地域交通の確立が求められるなか、人も車も大切な地元の資源と捉え、住民の自家用車移動を活用し、同じ方向へ出かけた移動ニーズとのマッチングを図る『共助型マイカー乗り合い公共交通サービス』として取組を開始。</p> <p>「移動」という側面から全世代がメリットを享受できる仕組みを実現しているほか、地元交通事業者も積極的に巻き込み、役割分担とサービスの差別化を図ることで、パイの奪い合いではなく共創による事業運営を実現している。</p>

◎全国過疎地域連盟会長賞（5事例）

団体名	キャッチフレーズ	概要
<p>株式会社ホップジャパ ン （福島県 <small>たむらし</small> 田村市）</p>	<p>過疎地域のリソース を産業循環エコシス テムで活用し中央 あぶくまから発信、 あぶくまブランドを 造成する</p>	<p>2000年代初頭に途絶えた福島県のホップ農業を地元農家と復活させ、ブルワリーを開業し、地域活性化の一翼を担っているほか、ビールの製造過程で排出されるホップや麦の粕を肥料として活用するなど、資源の再利用を行い、地球にやさしいまちづくりも実践している。</p> <p>また、新しい価値観に基づいた企業誘致の手法「LESIP」にも取り組んでおり、実際にその理念に共感した人が移住を予定しているほか、新たな企業が地域に進出するきっかけにもなっている。</p>
<p>しょうわむら 昭和村 （福島県 <small>しょうわむら</small> 昭和村）</p>	<p>夏秋期生産量日本一 の昭和かすみ草「百 年産地」を目指して</p>	<p>豪雪地帯という特徴を活かして、夏季の保冷に雪を使用する「雪室」を整備したことで、カスミソウの品質確保・向上が可能となり、夏秋期の生産量日本一、国内シェアの6割を達成している。</p> <p>また、カスミソウ栽培の担い手確保・育成事業にも取り組んでおり、直近5年の就農定着率は100%であった。さらに、村内の小中学生にカスミソウ栽培体験（「花育」）を行っており、次世代のふるさとへの愛着の醸成と村の基幹産業への理解につながっている。</p>

<p>ろんでん 論田自治会及び くまなし 熊無自治会、ろんく ま移住促進委員会 (富山県 ^{ひみし}氷見市)</p>	<p>～ねこ“ろん”で “くま”なく歩いて 住んでみて～ ん くま移住促進計画</p>	<p>地域資源を活かしながら、住民にとってさらに住み良い地域、移住者など地域外から人が訪れる地域を目指し、地元特産の草もちの事業承継、自治会の負担を減らすためのLINEでの電子回覧板の運用、地元文化財を巡るウォーキングイベントの実施、マスコットキャラクターなどの制作といった様々な地域を盛り上げる取組を展開している。</p> <p>各取組にキーパーソンがおり、世代間でバトンが受け継がれているほか、移住者や大学など地域外からの風が流れ込み、好循環が生み出されている。</p>
<p>特定非営利活動法人 ^{ほん おんせん} 本と温泉 (兵庫県 ^{とよおかし}豊岡市)</p>	<p>地産地読</p>	<p>「本と温泉」は2013年の志賀直哉来湯100年を機に次なる100年の温泉地文学を送り出すべく、城崎温泉にある旅館の若旦那衆が中心になって立ち上げたプロジェクトである。</p> <p>本をきっかけに「城崎のまちを訪れてくれること」等を目的に、城崎でしか買えない本を出版している。また住民、作者等と協力しながらイベント等も開催し、観光客のみならず、住民、作者等との交流も図っており、誘客促進やまちの活性化に繋がっている。</p>
<p>^{けか} 家賀再生プロジェクト (徳島県 ^{ちよう}つるぎ町)</p>	<p>家賀と藍をこよなく 愛する家賀再生プロ ジェクト</p>	<p>国内最大規模の急傾斜地である家賀集落では、年々過疎化が進み、集落存続が危機的状況だったが、平成30年に地域の伝統農法が、中四国で初めて「世界農業遺産」に認定されたことを契機に、地域外居住メンバー5人で「家賀再生プロジェクト」を立ち上げた。</p> <p>「世界農業遺産」を活かした「藍」栽培復活、食用「藍」の商品化、家賀集落の紹介など、地域資源を活かして地域活性化や雇用創出を目的に事業に取り組んでいる。</p>

※一般社団法人全国過疎地域連盟は、過疎関係都道府県及び過疎地域市町村等を会員とする団体で、会員相互の緊密な連絡提携により、過疎対策事業の充実強化を図り、過疎地域の持続的発展を促進し、過疎地域における産業・経済の開発振興と、地域住民の生活と文化の向上を図ることを目的とする団体です。

<p>連絡先</p>	
<p>総務省地域力創造グループ過疎対策室 担 当：平本、内藤 直 通 電 話：03-5253-5536</p>	<p>一般社団法人全国過疎地域連盟 担 当：菊地、吉川 直 通 電 話：03-5244-5827</p>